

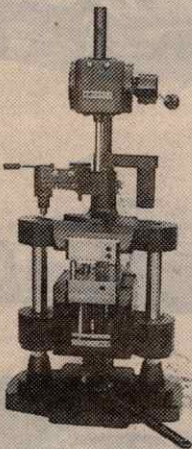
# 機 械

# 日経産業新聞

## ヒットの カルテ

金型メーカーの新興セルビック  
(本社東京、社長竹内宏氏、資本金五百万円)が今年初めに発売した卓上射出成型機「ハンデイトライ・デスクタイプ」が素材研究者の注目を集めている。この成型機は五ヶ程度の超微量の樹脂やセラミックスを手動で成型できる。メーカーや大学の研究室で日々、フランスコの中で化学反応させて開発されている素材を手軽に成型して、曲げ試験などの評価ができる。

### 新興セルビック 卓上射出成型機



新興セルビックの「ハンデイトライ・デスクタイプ」

ほかにこうした微量の素材を成  
大学の研究室では樹脂やセラミッ  
型できる製品がないだけに売れ行  
クスなど、実用段階に至る前の新  
きは好調だ。発売以来月間五台以  
素材を毎月三十種類ほど開発して  
上の販売を続けている。手作りな  
いる。これまではこの中から有望  
ので大量生産はできないが、専用  
とと思われるものを外部の業者に依  
金型など付属品を含めて一台二百  
頼して新素材をキロ単位まで量  
二十万円と高価で年間売上高一億  
産、通常の油圧式や電動式の射出  
材だけを曲げ強度、引っ張り強度  
二千万円の新興セ  
ルビックにとつて  
は戦略製品であ  
る。

素材メーカーや

## 微量素材も生かす 廃棄せず評価実験可能

などの試験まで実施していた。開  
発した素材の八〇％は見通しがは  
つきりしないまま評価もしないで  
廃棄してしまっていたのが現状な  
のだ。今まで捨てていた新素材を  
実際に評価できるとなれば、研究  
者にとって朗報である。  
ハンデイトライ・デスクタイプ  
は円筒状の容器に試験用の樹脂、

成型機で成型していた。しかし、セラミックスなどの素材を入れ  
微量の新素材を従来の射出成型機  
に必要なキロ単位の量までつくる  
には十万円以上の費用が必要だ。  
こうして研究費を注ぎ込んで成  
型できた見込みのありそうな新素  
材だけを曲げ強度、引っ張り強度  
本機能は備えている。  
高分子材料などの新素材は高温  
での温度調節が必要になる。この  
ため、金型内の素材の温度を摂氏  
四百五十度までプラスチック一  
度の範囲で調節できる温度調整機  
構を標準装備した。  
企業の研究所はともかく、大学  
は研究費が足りずに四苦八苦して  
いる。従来、費用の面から多くの  
新素材が廃棄処分の変き目にあっ  
てきた。この卓上射出成型機を利  
用すれば、実用化の可能性のある  
素材を掘り起こすことができるだ  
(伊東 浩一記者)

発行所 日本経済新聞社  
東京本社 〒100-6600(03)3270-0251  
東京都千代田区大手町1-9-5  
振替口座 東京 3-555番  
大阪本社 〒540(06)943-7111  
大阪市中央区大手前1-1-1  
振替口座 大阪 2-73217番  
西部支社 〒812(092)473-3300  
福岡市博多区博多駅東2-16-1  
振替口座 福岡 1-1248番  
名古屋支社 〒460(052)322-2561  
名古屋市中区正木2-3-1  
振替口座 名古屋 3-6149番  
札幌支社 〒060(011)281-3211  
札幌市中央区北1条西7-3  
©日本経済新聞社 1991